

名探偵・浅見光彦 全短編

四六判: 367ページ

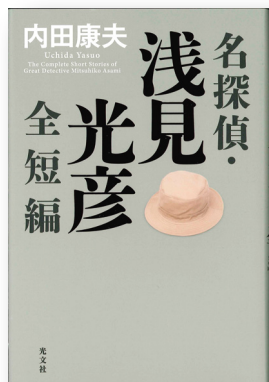
出版社: 光文社

発売日: 2022年2月28日

内田康夫・著



〈『名探偵・浅見光彦全短編』とは〉



100を超える事件を解決してきた浅見光彦ですが、その活躍を描いた短編は全部で6編しかなく、そのうち単行本に収録されたのは過去に5編のみ。しかも別々の本に収録されていました。それら5編「地下鉄の鏡」、「鏡の女」、「透明な鏡」、「他殺の効用」、「逃げろ光彦」に、今回単行本初収録となる『薔薇の殺人』の元となった「名探偵は居候」を加え、浅見光彦シリーズの全ての短編を一冊にまとめた〔完全版〕短編集です。

1982年2月発行の『後鳥羽伝説殺人事件』から40年の節目となる、2022年2月、浅見光彦登場40周年記念作品として発売されました。

〈あらすじ〉

●「地下鉄の鏡」

目の前で転落死した女性の最期の言葉を聞いた浅見。自殺ではないと言い張る彼女の友人と出会い、真相を追って札幌へ向かう。

●「鏡の女」

初恋相手から送られてきた白い姫鏡台。後日、彼女の死を知った浅見は、鏡台に助けを求めるメッセージが隠されていたことに気づく。

●「透明な鏡」

伊豆長岡温泉の露天風呂で、浅見は全裸女性の死体を発見する。首には索条痕があり、現場は密室だった。前代未聞のトリックとは。

●「他殺の効用」

あと二日で生命保険の免責期間が終わる日に会社社長が自殺した。役員から他殺を疑う相談が、浅見のもとに持ちこまれる。

●「逃げろ光彦」

女性が忘れた携帯電話をウェーターが間違っって浅見に渡した。その後そのウェーターが殺され、浅見は二人組の男に追われる羽目に。

●「名探偵は居候」

今年こそ家を出ようと考えていた浅見のもとに、救いを求めてやってきたのは、女子高生誘拐の嫌疑をかけられた遠縁の大学生だった。

〈登場人物〉

浅見光彦（あさみ みつひこ）……雑誌「旅と歴史」のライター。名探偵。